

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	学校法人・小倉幼稚園
活動日時	令和6年9月～令和7年2月
学級名	ふじ組（5歳児）
年間テーマ	絵本の読み聞かせ (環境の違いや保育の広がりを知る)



1. 活動テーマ

<テーマ>

絵本 「にじいろのさかな」

<テーマの設定理由>

園の取り組みで本の貸し出しを積極的に行っていることもあり、絵本を通して子ども同士の繋がりを深め、興味・関心を広げ 発想力・想像力を生み出す力を育てたいと思ったため。

2. 活動スケジュール

- *すぐ手に取りやすいように保育室にコーナーを作り、絵本「にじいろのさかな」と図鑑を並べ興味を持った生き物をすぐ調べられるようにする。
- *深海の生き物のカードを作り、水族館で実際に深海の生き物にふれる。
- *できるまでの課程や興味・関心の広がり等をドキュメンテーションなどで保護者と共有し、作品展で深海の世界を表現する。

3. 探求活動の実践

<活動内容>

環境の設定	活動中の子どもの姿・声
○「にじいろのさかな」のコーナーに興味を持つように絵本にでてくる深海の生き物などで飾り付けをする。 ○ 作り方の図を作り自分で作れるようにした。	・ 飾った折り紙（深海の生き物）に興味を示し「作ってみたい」という声がでた。 ・ 解らないところは先生に聞こうと言って尋ねたり、友達同士で教え合う姿が見られた  

- 深海の生き物カードを作る。（深海の生き物の写真を集める。）

- 自作のカードを持って水族館に行き 深海の生き物にふれる。

「こっちにいたよ」「いた いた」と毎日図鑑を見ていたので早くみつけれました。

- 大型の絵本を読む

抑揚をつけて読んだりテクニックもついてビックリしました。

〔作品展〕

- 色々な素材を使い深海の世界を作り出す

- ・ カードに生き物の名前や住んでいる深さを調べ書き入れる。「カタカナで書きたい」とオリジナルのカード作りを楽しんでいた。



- ・ 水族館で深海に住む生き物にふれ「ここは真っ暗だ」「こっちの方がちょっと明るい」など深さにより明暗があること、住んでいる深さが違うことなどに気づいた。

- ・ 声を出して本を読むことができるようになり「先生の代わりに読んであげる」と順番に読むようになる。



4. 振り返り

毎日、図鑑を見て絵本に出てくる生き物を調べ 海拔何メートルに住んでいるかなぜ深海に住んでいる生き物は光のかなど保育者に聞いてきたり、自分で調べた情報を保育者や友達に教える姿が日々広がっていった。単発的取り組みではなく長く取り組んだことが興味の持続になったと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	学校法人・小倉幼稚園
活動日時	令和6年9月～令和7年2月
学級名	うめ組（5歳児）
年間テーマ	絵本の読み聞かせ (環境の違いや保育の広がりを知る)



1. 活動テーマ

<テーマ>

絵本 シリーズ「へんしんトンネル」

<テーマの設定理由>

活字に触れる機会や文字への興味をもち、言葉の変化を楽しんでほしいため

2. 活動スケジュール

- *絵本を ひとり1冊選んで読んで、好きな言葉を共有する。
- *絵本を ひとり1冊選んで読んで、感想ノートを作り記入する。
- *ふじ組（5歳児）とパネルシアターや大型絵本を共有する。
- *作品展に向けて飛び出し絵本やセンサリーバック・パペットの製作をする。

3. 探求活動の実践

<活動内容>

環境の設定	活動中の子どもの姿・声
○「へんしんトンネル」のコーナーに興味を持つように絵本にでてくるキャラクター等で飾り付けをする。 ○ 園にない へんしんシリーズの絵本の追加 ○ 感想ノート	・コーナーに興味を示しみんなで読む姿が見られるようになる。  ・感想ノートに記入し たくさん読んだ実感を味わったり自分で文字を写すなどする姿が見られた。

- ひらがな表をすぐ手に取れるところにおいておく。

- ふじ組と共有し、生き物のカード作り

「これがタカアシガニだよね？」とカードの字をみて確認！

[作品展]

- いろいろな廃材などを使って言葉の楽しさを作品で表現する。

「カッパ大先生ができた！」と出来上がったパペット（人形）に大喜び！！

- ・ ひらがな表を見ながら子ども同士で字を教え合う姿がみられた。
- ・ 自分の名前や知っている言葉を変換して口ずさんだり字を丁寧に書く姿が見られた



- ・ 生き物の名前や海拔何メートルかなど ひらがなや数字を書き入れてカードを作り水族館で実際の生き物にふれる。



4. 振り返り

- ☆へんしんシリーズ絵本は、文章量が少ないが声に出して読んだり、次に変わる言葉を予測しながら読んだりする姿が見られ興味の広がり驚いた
- ☆絵本の文字を感想ノートや製作時に書き写すとき、絵本のフォント通りにする子が多くいた。修正はせず忠実に書き写していることに感心した。
- ☆文字に多く触れる機会が増えて、手紙を書いたり字を教え合うようになり、良い刺激を受けあっているのを感じられた。
- ☆最終的に作品展で立体的に表現するときに、すぐにイメージをもって活動を進めることができた。
- ☆テーマを持続的に行ったことで、子ども同士の一体感や共感がうまれた。